

令和2年度（2020年度）行政評価シート【個表】

令和 2 年 8 月 14 日

評価対象事業		評価者	中央図書館長 朴澤 徹範
教育-39	実施事業	図書館管理運営事業	■ 自治事務
			□ 法定受託事務
		主管課	中央図書館
		関連課	
総合計画上の位置付け	分野	生涯学習	施策の方針
			学習環境の整備・充実

1 事業の目的

対象	市民等
意図	図書等資料を収集、整理・保蔵して市民等の利用に供し、市民等の教養、調査、研究及びレクリエーション等に資するため
効果	市民自らが文化的教養を高め、自己判断力の向上を目指すとともに、調査・研究等に活用されること

2 令和元年度(2019年度)に実施した事業の概要

<ul style="list-style-type: none"> 効果的な資料収集を図るとともに、市民ニーズに則した貸出業務、インターネット予約受付などを実施した。 図書館業務に必要な嘱託員の配置と諮問機関としての図書館協議会の運営を図った。 図書館施設の維持管理を行なった。 第3次鎌倉市図書館サービス計画・第3次子ども読書活動推進計画を推進した。

3 事業費等基礎データ

データ区分	30年度(2018年度)決算		01年度(2019年度)決算		データ区分	02年度(2020年度)当初予算		備考
	30年度(2018年度)決算	01年度(2019年度)決算	02年度(2020年度)当初予算	備考				
人口等のデータ	人口	176,308人	176,436人	人口	176,608人	・各年3月31日(住民基本台帳)		
	世帯数	81,763世帯	82,444世帯	世帯数	83,058世帯			
	事業の対象者数			事業の対象者数				
運営資源状況	決算値(千円)	142,332	146,042	当初予算(千円)	130,848			
	国県支出金			国県支出金				
	地方債			地方債	35,300			
	その他			その他	7,080			
	一般財源	142,332	146,042	一般財源	88,468			
	人員配置数	21.8	22.8	人員配置数	22.8			
人件費(千円)	168,292	182,544	人件費(千円)	230,010				
事業経費運営	総事業費(千円)	310,624	328,586	総事業費(千円)	360,858			
	市民1人当りの経費(円)	1,762	1862	市民1人当りの経費(円)	2,043			
	対象者1人当りの経費(円)			対象者1人当りの経費(円)				

4 評価結果

※「効率性」「妥当性」「有効性」「公平性」「協働」については、プルダウンで選択。

効率性	事業費に削減余地はないか	2. ない
	関連・類似事業との統合はできないか	3. 統合できない
妥当性	事業の実施に対する市民ニーズはあるか	3. 変わらずにある
	事業の廃止・休止による市民生活への影響は大きいのか	3. 廃止・休止による影響は大きくある
有効性	事業の成果は得られているか	3. 十分な成果が出ている
	事業の上位施策に向けた貢献度は大きいのか	4. 事業の方向性や手法も適切であり、大きく貢献している
公平性	受益者負担は公正・公平か	△.負担未導入
		△-2. 受益者はいるが、今後も公費により全額市が負担すべきものである
協働	市民等と協働して事業を展開しているか	○.協働実施済
		協働実施済の場合のパートナー ファンタスティック☆ライブラリー実行委員会 地域の市民団体
事業内容の方向性	<input type="checkbox"/> a: 事業内容を見直す ⇒ <input checked="" type="checkbox"/> b: 事業内容は現状通りとする <input type="checkbox"/> c: 事業を休止又は廃止する <input type="checkbox"/> d: 他事業と統合し、本事業は廃止する ⇒	見直しの種類 <input type="checkbox"/> 拡大 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> その他
		見直しの内容 事業へ統合
予算規模の方向性	<input type="checkbox"/> A: 予算規模を拡大する <input checked="" type="checkbox"/> B: 予算規模は現状維持とする <input type="checkbox"/> C: 予算規模を縮小する	事業内容・予算規模の方向性設定の理由 適切な資料の収集、管理、貸出しを行い、デジタル資料の提供を進めるなど市民ニーズに応えていく。広告収入や雑誌スポンサー制度等の周知を図り、財源の確保に努める。図書館振興基金の活用について検討していく。
	総評(評価に対する考え方、根拠等)	事業費に関しては、所蔵資料の古さ少なさに対する意見や要望も多い。所蔵していない資料については県内・県外図書館からの借用して対応している。施設の老朽化に対応する必要があるなど、これ以上の予算の削減は難しい。公共施設再編整備計画では地域館は拠点校へ統合することとしている。中央図書館は市役所跡地に複合施設として移ることとしている。市民ニーズに継続して対応できる体制づくりが、ハード面・ソフト面で必要となる。図書館行事の「ファンタスティック☆ライブラリー」は、市内でボランティア活動を行っている団体等が実行委員会形式で運営をしている。地域館でも、地元で活動している市民団体等や地域住民と連携してイベントを実施しており、今後も市民と協働して図書館事業を推進していきたい。

令和元年度(2019年度)事業実施にあつた課題(前年度未解決の事項を含む)	休館日や開館時間の変更は、市民サービスの向上に繋げるため、アンケートや試行の結果を踏まえて総合的に見直す必要がある。
課題解決のために行った令和元年度(2019年度)の取組	建物メンテナンス、館内整理、研修時間の捻出のため休館日を月1回から週1回への変更すること並びに開館時間の延長を検討した。 休館日及び開館時間を令和2年(2020年)4月からの変更することを決め、準備を行った。 令和2年4月から導入する会計年度職員制度に向け、業務の整理を行うなど、準備を行った。
未解決の課題、新たな課題とその理由	新型コロナウイルスの感染防止対策を進めてく。 図書館業務に必要な知識や技術を伝承していく。

○ 他市比較・ベンチマーク(県内外自治体など他自治体や民間団体との比較値)

比較事項	月1回の休館								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○	○(南市民のみ)	×	×	×	×	×	×	×

比較事項	宅配サービス								
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績	○	×	×	×	×	○	×	○	×

当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方	より多くの市民等に図書館を利用してもらうため、利用者のニーズに合わせたサービスの充実を図るため。
----------------------	--

◎ 事業実施に係る指標

指標の内容	個人貸出点数	単位	点	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	3月4日~31日全館休館。臨時窓口で貸出しの対応。
蔵書の充実を図り、多くの市民に図書館を利用してもらうため	目標値	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	1,500,000	
	実績値	1,382,363	1,411,599	1,349,752	1,332,565	1,325,723	1,202,662	
	達成率	92.2%	94.1%	90.0%	88.8%	88.4%	80.2%	

指標の内容	図書の蔵書新鮮度(新規受入点数/蔵書点数)	単位	%	指標の傾向	⇒	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	蔵書にして数年間によく利用されることから、新しく蔵書にした資料の割合を高めることが図書館の魅力につながるため
蔵書にして数年間によく利用されることから、新しく蔵書にした資料の割合を高めることが図書館の魅力につながるため	目標値	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	4.5	
	実績値	4.0	3.6	3.8	3.5	3.9	4.0	
	達成率	88.9%	80.0%	84.4%	77.8%	86.7%	88.9%	

指標の内容	来館者数(平成30年度(2018年度)よりカウント開始)	単位	人	指標の傾向	↘	備考		
当該指標を設定した理由	年次	H26(2014)	H27(2015)	H28(2016)	H29(2017)	H30(2018)	R01(2019)	図書館への来館目的は、館内閲覧、利用者用インターネットの利用など、貸出を伴わないことも多いため
図書館への来館目的は、館内閲覧、利用者用インターネットの利用など、貸出を伴わないことも多いため	目標値	-	-	-	-	850,000	860,000	
	実績値	-	-	-	-	853,311	754,442	
	達成率	-	-	-	-	100.4%	87.7%	

当該事業実施に伴う指標の推移に関する考え方	図書館システムの更新により、ホームページのリニューアル、蔵書点検等の効率化、セルフ貸出機の導入など、利用者の利便性を図っているが、貸出件数が増えない原因として、インターネットや電子書籍の普及による情報収集の多様化していることが考えられる。また、令和2年3月から新型コロナ感染対策による休館が弊害となってしまった。資料費の確保のほか、寄贈資料を活用するなど蔵書の更新に努めているが、所蔵資料の新鮮度を十分には高められていない。平成30年度から来館者数のカウントをはじめており、結果をサービス向上に活かしていきたい。
-----------------------	--